

○ 草の根パートナー型

パートナー型フォローアップ案件

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	フィリピン
2. 事業名	バヤタス地区における地域型保健および生計向上フォローアップ事業-協同組合の強化を通して-
3. 事業の背景と必要性	<p>フィリピンの首都マニラ首都圏のケソン市バヤタス地区には、フィリピン最大のごみ処分場がある。ここでは、約3,000人の人々がリサイクルできる資源を集め、換金をして生活している。住民の半分以上は適切な家屋を持たず、ごみ処分場からの有毒ガスに加え、水質・大気汚染による呼吸器疾患や皮膚病、結核などの感染症が蔓延し、深刻な健康被害に苦しんできた。</p> <p>このような状態に対して、実施団体は1996年から先行事業を実施し、現在までに住民の協同組合が保健事業を完全に担う状態を作り上げるとともに、多くの若者の収入機会を作り出してきた。ごみ処分場が日々拡大していく中、さらに地域の保健サービスを強化するとともに、より多くの若者の収入機会を作り上げていくことが望まれている。</p>
4. プロジェクト目標	対象地域において、住民主体の持続的な保健サービスが強化されているとともに、より多くの地域の青年が収入機会を獲得し、身に付けた技術を実践できている。
5. 対象地域	フィリピン共和国マニラ首都圏ケソン市バヤタス地区
6. 受益者層 (ターゲットグループ)	<p>直接：バヤタスごみ処分場周辺住民530名</p> <p>間接：バヤタスごみ処分場周辺住民5,000名</p>
7. 期待される成果及び活動	<p><成果></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健サービスの提供が安定化する。 2. 保健サービスの運営主体が強化される。 3. 対象地区のより多くの青年が生計技術と知識を習得し、またそれを活かすための就職・起業支援を受けている。 <p><活動></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 次世代の地域保健員の育成、ユース・ヘルス・アドボケイツによる保健教育、協同組合への保健活動に対するコンサルテーション 2. 協同組合の組織基盤強化研修、協同組合の基盤強化実践 3. 青年への職業訓練、及び修了者への起業・就職支援とフォローアップ活動
8. 実施期間	2011年4月～2013年3月（2年）
9. 事業費概算額	30,000千円
10. 事業の実施体制	実施団体日本事務局（ICAN Japan）、その海外支部（ICAN Philippines）、先行事業で設立された協同組合（PICO）の3者が協力して実施する。
II. 応募団体の概要	
1. 団体名	特定非営利活動法人 アジア日本相互交流センター（ICAN）
2. 活動内容	1994年設立。日本とフィリピンの4つの事務所にて、危機的状況に置かれた子どもたちと「ともに」、保健・医療、教育、生計向上の事業を実施。